

【令和元年度事務事業点検評価】

# 今金町教育委員会 外部評価委員会提出資料

〈令和元年度年間評価〉

令和2年7月9日実施分



今金町教育委員会

**令和元年度 今金町教育委員会外部評価事務事業一覧表 年間点検評価**  
 〈学校教育グループ、給食センター庶務業務グループ〉

事業番号	事務・事業名	自己評価				外部評価委員評価	
		妥当性	成果	効率性	総合評価	評価欄	意見
1	へき地・小規模校への教育の推進事業	A	A	A	A	A	小規模特認校制度に関しては、個々にあった指導により児童一人ひとりの成長につながっており、引き続き継続していただきたい。
2	就学援助の充実事業	A	A	A	A	A	就学援助や就学資金制度により経済的支援を図り適切な就学を支援していることは評価できる。今後も更なる支援の充実を図っていただきたい。
3	特別支援教育の推進事業	A	A	A	A	A	特別支援教育の充実を図るため、各関係機関との情報共有など連携が図られている。特別支援教育支援員の人材確保を図り、更なる支援体制をお願いしたい。
4	地域の教育力活用事業	A	A	A	A	A	地域の教育力を学校教育の現場で生かし地域ぐるみで様々な体験学習が実施されており評価できる。今後も地域人材の協力をいただき充実を図ってほしい。
5	指導主事の配置事業（「ふれあい相談」相談員の配置事業を含む）	A	A	A	A	A	指導主事の配置により教育委員会と学校・家庭・地域が円滑な連携協力が図られている。今後もふれあい相談、各種会議における指導助言等について引き続き取り組んでいただきたい。
6	国際交流推進アドバイザー活用事業	B	B	B	B	B	昨年度の授業回数の増加が課題であったが、その課題を改善し本来の国際交流アドバイザーの業務を行うことができた。引き続き国際理解教育の推進を図っていただきたい。
7	豊かな心と健やかな体の育成事業	A	A	A	A	A	健康教育アドバイザーにより子ども達の豊かな心と健やかな体の育成を図ることができたことは評価できる。特に感染症予防対策として新型コロナウイルス関連、手洗い指導など「新しい生活様式」における適切な指導が図られた。
8	学童保育所運営事業の充実	A	B	A	B	B	子どもたちの放課後対策拠点として学童保育所は大きな役割を果たしていることは評価ができる。今後も継続として運営するため施設面や人員配置の検討が必要。
9	町立学校教職員の働き方改革推進事業	B	B	B	B	B	学校教職員の勤務時間の管理など働き方が見直しされ、勤務時間の縮減につながるなど一定の成果が表れており、今後も働き方の改善を継続していただきたい。
10	学校給食と食育・食農ネットワークの推進事業	B	B	B	B	B	おにぎりづくり体験に限らず、いろいろなアイデアを取り入れて食育の推進を継続してほしい。
11	学校給食センター給食供給事業（衛生管理）	A	A	A	A	A	衛生管理を最大限対応していただき、安心安全な給食供給に心がけていることは評価できる。多くの卒業生からも今金町の学校給食が美味しいとの声も聞いていることから、今後も継続して美味しい給食供給をお願いしたい。
12	学校栄養教諭と栄養士による給食指導及び食に関する指導事業	B	B	B	B	B	栄養教諭と栄養士が給食供給を作業分担しながら適切に行い、食育指導も工夫し実施しており、今後も子どもたちのアンケートを踏まえ継続して取り組んでいただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		学-①
款	10	教育費	<p>①事業の目的</p> <p>北海道教育大学の学生がへき地・小規模（複式校）で行う教育実習の支援協力を行うもの。北海道へき地複式連盟加盟学校は、道内小学校1,054校のうち242校（約23%）であり、その多くが複式学級で構成されていることから実際に教師になったとき、へき地・小規模校で教鞭をとる割合が高いと考えられる。種川小学校と同規模の小学校が道内にはいくつかあり、その小学校で教育実習を行うことで、「教育の原型」に直接触れ、「教育とは何か」「へき地とは何か」という命題について、地域の中に位置づく学校の日々の教育活動から答えを見出す契機となることが期待される。</p> <p>種川小学校は、H27より小規模特認校制度、H29より学校運営協議会（CS）を導入した。</p> <p>今金小学校・今金中学校は、小中連携という形でH30.3月より学校運営協議会（CS）導入した。</p>	
項	1	教育総務費		
目	2	事務局費	<p>②事業対象と手段</p> <p>へき地・小規模校における教育活動の観察や授業実習等を通して、成長していく子どもの様子や地域と学校の結びつき、またその中での教師の役割について理解を深め、教師としての基盤を確立する。</p> <p>○ へき地・小規模校教師の仕事の理解</p> <p>ア 学校経営について イ 児童理解について ウ 複式・少人数授業（指導を含む）について</p> <p>エ 分掌等の事務処理について オ 特色ある学校づくりについて</p> <p>○ 地域と学校との結びつきの様子について認識を深める</p> <p>○ 令和元年度の教育実習実施日</p> <p><b>種川小学校へき地複式研究大会プレ大会の開催により実習生の受け入れを中止</b></p> <p>③小規模特認校制度について（H27年度より運用開始）</p> <p>恵まれた自然環境や教育環境の中で少人数指導を活かして、児童の心身の健やかな成長を目指し、豊かな人間性を育むための教育活動を展開する小規模な小学校であって、当該小学校に就学した児童がその通学区外の区域外から通学することを一定の条件の下に認めるもの。H27より種川小学校を指定している。令和元年度は、1年生5名、2年生3名、3年生3名、4年生2名、5年生1名の計14名が小規模特認校制度を利用し、種川小学校へ通学している。（全児童24名中14名が小規模特認校利用児童）</p>	へき地・小規模校への教育の推進事業
節		金額（千円）		
【事務局費】				
	8.	報償費	56	
	19.	負担金補助及び交付金	300	
計			356	
補助金等の有無		有	無	
名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望	
〔事務・事業の写真等〕		妥当性	A	今年度のへき地校教育実習は中止となったが教員をめぐす学生が教育実習を行うことは、全道の小学校約23%を占める「へき地・小規模校」の教育活動に理解を深めることに繋がることから、引き続き取り組みは継続したい。小規模特認校制度に関して、児童は、複式による少人数教育を受けることができている。今金町がめぐすCS、今金町教育スローガンの達成に向けた学校経営ができている。
		成果	A	小規模特認校制度に関して、個に合った指導により児童一人ひとりの成長に繋がっている。CSを導入している種川小学校では、下校時の児童の見守りを地域の方がボランティアで協力して頂いており、地域とともにある学校づくりの成果が表われている。
		効率性	A	効率的に事業を実施している。今金市街地等から小規模特認校制度を利用している児童は、教育委員会と業者委託し運行しているスクールバスを利用し登校している。学校だけで出来ないことは、地域からの協力を得ながら学校運営を行っている。
		総合評価	A	実習生を受け入れることで、学校や児童にも良い刺激があることから、継続実施する必要がある。小規模特認校制度に関して、小規模校で複式教育を受けさせたい保護者にとっては希望に沿った教育を受けることができている。学校運営協議会については、H29種川小学校、H30今金小学校・今金中学校が小中連携型で導入し、町立学校全校が『地域とともにある学校づくり』を推進していく。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	小規模特認校制度に関しては、個々にあった指導により児童一人ひとりの成長につながっており、引き続き継続していただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		学一②
款	10 教育費	①事業の目的 経済的な理由を有する児童生徒の適切な就学を支援するもの。		
項	1・2・3 教育総務費・小学校費・中学校費	②事業対象と手段 ア 今金町奨学資金貸付基金条例による奨学金の貸与 ※ 今金町奨学資金貸付基金条例の一部改正を実施（H31.3実施） 対象者 優秀な常生生徒で経済的理由により修学困難な者 ※H30年度貸与者内訳（継続者20名、新規5名）		就学援助の充実事業
目	2・1 事務局費・教育振興費	【内訳】○高等学校（公立）月額15,000円 0名 ○高等学校（私立）・高専（3年）専修学校（公立）月額20,000円 0名 ○短期大学 月額28,000円 0名 ○専修学校（私立）・高専（4年） 月額25,000円 7名 ○私立大学 月額30,000円13名 ○大学院・公立大学 月額25,000円 4名		
節	金額（千円）	○ 令和元年度当初 今金町奨学資金貸与基金 52,094,987円 ○ 令和元年度今金町奨学資金貸与運営委員会の開催（4月22日開催） ○ 奨学資金に関する解りやすいリーフレットの作成※「戸籍窓口」に配置し転入者に周知している。今金中学校3年生、檜山北高等3年生に直接配布している。		
1. 報酬	29	イ 就学困難な児童及び生徒に係る就学奨励について国の援助に関する法律による（学校基本法）「要保護準要保護児童生徒への就学支援」		
20. 扶助費	3,163	対象経費 学用品費・修学旅行費・学校給食費・体育実用品費・医療費等		
	小 1,361	令和元年度 対象児童生徒数 小学生17名、中学生15名 合計32名		
	中 1,802	令和元年度 新入学児童生徒学用品費前倒し支給 対象児童生徒数 小学生4名 中学生3名 合計7名		
		〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
計	3,192	評価項目 評価 評価の内容及び今後の展望		
補助金等の有無	有・無	〔事務・事業の写真等〕		
名称	特別支援教育就学奨励費国庫補助金	妥当性 A 準要保護による就学支援により、経済的に困窮している家庭を支援することで、児童生徒が安心して就学することができる。奨学資金制度を活用し人材育成を図ることができている。		
金額	80千円	成果 A 各校の新入学児童生徒説明会で準要保護制度の説明を実施し、本制度の周知し、理解を得ている。奨学資金に関しては、転入者向けに戸籍の窓口にリーフレットの配置、中学3年生、高校3年生には直接リーフレットを配布し、奨学資金貸付制度の周知し、理解を得ている。準要保護による就学支援により、給食費を援助することから給食費の滞納防止ができている。経済的理由により修学困難な生徒に対し奨学資金を貸与することにより人材育成が期待できる。		
		効率性 A 準要保護対象者への就学援助や、奨学資金制度を活用した就学支援を効果的に実施している。		
		総合評価 A 小学校・中学校へ入学する児童・生徒世帯に対して入学に係る学用品費を入学式前に繰上げて支給し、更なる経済的支援を行い、また、高校・大学等へ進学する奨学資金貸与希望者に奨学資金を貸与することにより、経済的支援を図り、適切な就学を支援することができる。		

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	就学援助や就学資金制度により経済的支援を図り適切な就学を支援していることは評価できる。今後も更なる支援の充実を図っていただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		[事務・事業の概要]	学-③
款	10 教育費	<p>①事業の目的</p> <p>特別支援教育のあり方について、町内小中学校及び専門機関・関係機関等と連携し支援体制の具体化を図ることと、今金町に適した特別支援教育の推進のための調査研究と実践活動を行うもの。</p> <p>②事業対象と手段</p> <p>○ 各小中学校への特別支援教育支援員の配置 ※大学の協力を得て、人材の推薦を頂いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今金小学校常勤1名、種川小学校常勤2名、今金中学校常勤1名配置 計4名配置</li> </ul> <p>※特別支援学級以外の児童生徒に対する細やかな支援対応や今金小学校の支援員が学童保育所を巡回し担当児童等の支援を実施</p> <p>○ 今金町教育支援委員会の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H26年度より今金町特別支援教育連絡協議会・今金町就学指導専門委員会を統合し設置。また委員会内に専門部会を設置し、従来の今金町特別支援教育推進チームや育ちの支援委員会等の機能を引き継ぎ、必要に応じ随時開催している。</li> <li>・今金町教育支援委員会委員の意見より、H30より就学時知能検査を「簡易検査」から「知的発達スクリーニング検査」へ変更した。</li> </ul> <p>○ 個別の教育支援計画の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期的な視点で、学校や家庭、各関係機関での支援を実践する上での重要なツールとして活用</li> </ul> <p>○ 特別支援教育スーパーバイザーの配置 (H27年度まで) ※H28年度より適任者不在のため未配置</p> <p>○ 健康教育アドバイザーの配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H27年10月より今金町健康教育アドバイザーを配置し、町内乳幼児健診をはじめとする相談業務等に従事し特別支援教育の充実を図っている。</li> <li>・不登校生徒に寄り添った相談役として教職員とは違った角度から関わり、心のケアを行っている。</li> </ul> <p>○ 特別支援学校との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育における地域の専門機関との連携 (今金高等養護学校)</li> <li>・特別支援教育パートナーティーチャー派遣事業の活用 (今金高等養護学校)</li> <li>・特別支援学校卒業生に対する今金町就労支援事業により2年間嘱託主事として採用 (H23年度1名、H24年度1名、H27年度1名、H28年度1名、H29年度1名、H301名)</li> <li>・今金町特別支援学校児童生徒帰省費支給要綱 (町単独事業) に基づく支援の実施</li> </ul>	
項目	1・2 教育総務費・小学校費 1・2 教育委員会費・事務局費		
節	金額 (千円)		
1. 報酬 3. 職員手当等	159 8,601		
計	8,760		
補助金等の有無	有・無		

名称	[自己点検と評価] ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
[ 事務・事業の写真等 ]	妥当性	A	個別の支援を要する幼児・児童・生徒が増加する中、特別支援教育を幼小中高や関係機関が連携して推進する体制が確立している。
	成果	A	幼小中の児童生徒に関する教育支援委員会専門部会等で対象者の状況や今後の手立て等について協議を行うなど効果が現れている。今金町教育支援委員会の委員の意見を参考とし、就学時知能検査を簡易検査から知的発達スクリーニング検査に変更し実施し、検査要精査者や希望者に教育相談を実施するなど、特別支援教育の充実を図ることに繋がった。
▲ 今金町教育支援委員会	効率性	A	特別支援教育の充実を図るため、各関係機関と連携しながらきめ細やかに各事業を効率的に実施している。
	総合評価	A	小中学校への特別支援教育支援員の配置や各種会議等により各関係機関の情報共有が図られており、特別支援教育の充実が推進されている。今後も、よりきめ細やかな対応が求められることから、研修等を行い、更なる特別支援教育の充実を図っていく。

[外部評価委員会の点検・評価] ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	特別支援教育の充実を図るため、各関係機関との情報共有など連携が図られている。特別支援教育支援員の人材確保を図り、更なる支援体制をお願いしたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕	学-④
款 項 目	10 教育費 2 小学校 2 教育振興費	<p>①事業の目的</p> <p>H20年度に文部科学省がすすめる「地域の教育力を学校教育支援に」を合言葉に、全国的に推進されている学校支援地域本部事業を今金町でもスタートし、子ども達をとりまく社会環境が複雑になる中、子ども達の健全育成を学校や家庭だけでなく、地域に埋もれている豊富で高度な教育力を学校教育の場にも生かし、地域ぐるみで子ども達を育てていくことを目的とする。</p> <p>②事業対象と手段</p> <p>各学校、今金町学校運営協議会（CS）</p> <p>【主な活動計画】</p> <p>○今金小学校世代間交流事業（3年生対象）での人材活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第3老人クラブ・檜山振興局森林室北檜山事務所・今金小学校の三者による事前打ち合わせ</li> <li>第3老人クラブによる「縄ない」や「小枝のえんぴつ、丸太のフクロウ、鉛筆立て」の作成、「お手玉遊び」</li> <li>檜山振興局森林室北檜山事務所による講演「森の自然を学ぶ」や木工体験「木の実クラフト」を実施</li> </ul> <p>○種川小学校での人材活用事例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>町内の琴愛好家による全校音楽の時間を活用した「琴の演奏」を実施予定</li> <li>※H27年度に各小中学校に琴や三味線の寄贈があったことから、琴の音色を児童に聞いてもらうため事業を実施している。</li> </ul> <p>【その他の活動（参考）】</p> <p>○各学校での独自取り組みによる人材活用事例（総合的な学習）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>種川小学校「ふるさと先生」を活用し「各学年の書写・習字学習、かぼちゃ栽培、きこの栽培、水泳指導」を実施</li> <li>今金小学校「今金の米から食を考えよう」「光の里とのふれあい学習」を実施</li> </ul>	
節	金額（千円）		地域の 教育 力 活 用 事 業
8. 報償費	12		
計	12		
補助金等の有無	有・ <b>無</b>		

名称 金額	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
〔事務・事業の写真等〕			
	妥当性	A	地域の人材の教育力を学校現場で活用することは子どもたちの成長に有効である。
	成果	A	普段経験をしないことを体験することで子どもたちが興味や関心を持つ良い機会となっている。
	効率性	A	効率的に事業を実施している。
	総合評価	A	年間を通じた取り組み（体験活動等）をすることにより子どもたちの成長に繋がることとなることから、今後も継続した取り組みが必要不可欠である。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	地域の教育力を学校教育の現場で生かし地域ぐるみで様々な体験学習が実施されており評価できる。今後も地域人材の協力をいただき充実を図ってほしい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕	
款	10	教育費	<b>①事業の目的</b> <b>【指導主事配置事業】</b> 時代背景に即し、今金町の教育環境の整備と教育を取り巻く諸課題の解決を図るために、学校・地域・家庭との双方向の連携を密にするとともに、関係機関（団体）に情報提供や助言等を行う。  <b>②事業対象と手段</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教育委員会の教育行政施策の具現化に向けて、校長会、教頭会、教育関係機関・団体等へ必要な指導助言を行う</li> <li>学校経営の充実向上に資するため学校訪問を行う</li> <li>学校教育の推進に関して、校長会、教頭会、教育関係機関・団体との連絡調整指導助言を行う</li> <li>就学前施設・小学校・中学校との連携状況に関する指導助言を行う</li> <li>特別支援教育推進アドバイザーとして、校長会、教頭会、関係機関・団体と連携及び指導助言を行う</li> <li>教員の各種研究・研修に関して、必要な指導助言を行う</li> <li>教育支援委員会の運営に関して、必要な指導助言を行う</li> <li>その他、教育長の命による事項について調査・企画・調整等を行う</li> </ul>
項目	1	教育総務費	
	2	事務局費	
節		金額（千円）	
3.	職員手当等	1,560	
9.	旅費	147	
計		1,707	
補助金等の有無		有・ <b>無</b>	

**①事業の目的**  
**【「ふれあい相談」相談員配置事業】**  
 保護者や児童生徒が抱えている不登校や問題行動等の諸問題を日中・夜間問わずに24時間体制で相談できる電話による「ふれあい相談（82）3550」を設置することと、児童生徒が悩みや相談を気軽に話すことができるよう「ふれあい相談」相談員を配置し、児童生徒の健全な学校生活、家庭生活を  
**②事業対象と手段**

- 「ふれあい相談電話」設置による24時間体制の確立

  
**【ふれあい相談員活動実績及び計画】**  

学校名	実績/計画時間(実績/計画日数)
今金小学校	102時間/93時間（34日/31日）
種川小学校	57時間/48時間（19日/16日）
今金中学校	81時間/93時間（27日/31日）
合計	240時間/234時間（80日/78日）

学-⑤  
 事業名  
 指導主事の配置事業  
 「ふれあい相談」相談員の配置事業を含む

名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
〔事務・事業の写真等〕	妥当性	A	教育長の教育行政執行方針を教職員に説明するなど、教育委員会と学校が円滑に連携・協力できるようにしている。ふれあい相談を実施し、管理職や教職員への指導・助言、児童生徒からの相談対応ができています。
	成果	A	学習指導要領の移行期に伴い、「特別の教科道徳」「外国語」の実施に向け、指導・助言を行った。就学前児童保護者に対する教育相談において、小学校入学までに家庭でやるべきことなど、的確な指導・助言を行った。
	効率性	A	ふれあい相談や各種会議で指導助言を行うことで学校・家庭・教育委員会の連携を深めることができています。
	総合評価	A	指導主事を配置することで、学校訪問等により各学校や教職員と関わる機会が増えており、研究会の指導・助言など指導主事の配置は町教育行政の推進に欠かせないものである。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	指導主事の配置により教育委員会と学校・家庭・地域が円滑な連携協力が図られている。今後もふれあい相談、各種会議における指導助言等について引き続き取り組んでいただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成30年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

平成30年予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		学-⑥	
款	10 教育費	①事業の目的 今金中学校の生徒がニュージーランドとの国際交流を図っており、英語圏出身の国際交流アドバイザーを招聘し、幼児教育、学校教育における国際理解の充実を図るとともに児童生徒の英語力の向上を図る。また、併せて広く町民への国際理解の機会を提供するもの。学習指導要領の改訂で小学校3・4年生の「外国語活動」の本格実施に伴い、アドバイザーの授業支援をもって国際理解教育の推進を図る。			事業 業務 名 名
項	4 社会教育費				
目	5 国際交流推進費				
節				金額(千円)	
1. 報酬	4,633				
9. 旅費	34				
11. 需用費	50				
12. 役務費	2				
計		4,719			
補助金等の有無		有・ <b>無</b>			
名称 電源立地地域対策交付金		〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		国際交流推進アドバイザー活用事業	
金額 3,000千円		評価項目 評価 評価の内容及び今後の展望			
〔事務・事業の写真等〕		妥当性 C 制度の移行期に当たり、小学校1～2年生の「英語に触れる活動」、3～6年生の「外国語活動」の授業にALT(外国語指導助手)として授業支援を行っている。教職員研修も不十分な情勢のため、ほとんどの授業はアドバイザーが中心的な役割を担っているが、本来は教職員が主を務めるべきものである。			
		成果 B 今年度から小学校偏重の傾向が強くなり、訪問回数全体の8割程度を占めるようになった。アドバイザーによる授業支援は的確なもので、小学校では効果を上げている一方、認定こども園や中学校、成人対象の英会話教室は最大で訪問回数が半減しており、本来の活動から離れはじめています。			
▲英語キッズクラスの様子		効率性 B ALT(学校専属)とは異なり、町独自の契約職員として、学校教育を含めた全世代を対象とする国際理解教育を担当しているものの、今年度から小学校偏重の傾向が強くなり、是正が必要である。また、前年度より訪問回数が40回増加し、これ以上のアドバイザーの負担増加は限界にきている。			
		総合評価 C 幼児期、小学校、中学校、高等養護学校、一般向け英会話教室など、幅広い年代層でのバランスのとれた活動が本来の姿である。制度の移行期とはいえ、今年度は小学校偏重の傾向が強くなり、これ以上のアドバイザーの活用は限界にきている。平成30年度の反省から、次年度は、英語に長けている社会教育指導員を小学校外国語活動の授業サポーターとして位置付ける。			

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
C	国際交流推進アドバイザーの役割としての成果は評価している。ただし、運用面については検討が必要である。次年度へ向けて課題が見えているので、解消するよう取り組んで頂きたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔平成30年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

平成30年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		学一⑦
款 項 目	10 1・2・3 1・2	教育費 教育総務費・小学校費・中学校費 教育委員会費・教育振興費	<p>【事業の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命を尊重する心、自他の心と体を大切にすることの育成を図り、正しい知識を持って、適切に行動する力を育む。</li> <li>・生涯を通じて、心身の健康を保持増進するために健康の大切さを認識し、自らの健康を管理・改善していく力を培う。</li> </ul> <p>【事業の内容】（下線項目は資料添付）</p> <p>○「各検診事業の実施」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 心臓検診、尿検診（4月）・内科検診（5月）・歯科検診、耳鼻科検診（6月）・眼科検診（7月） ※教職員健康診断（7月、8月）</li> <li>◇ 就学時健康診断（10/31） ※教育相談希望の保護者は6件あり、保護者と個別面談を実施。 配慮を要する児童の親子連携（S・ハス、校内や児童、入字式練習）を保護者・学校・発達センター・園・事務局・児童と連携、実</li> </ul> <p>○「心の健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 対象生徒の課題に即した心のケアや健康相談の実施。（H30年度対象生徒：中学校特別支援学級男子3名、女子2名）</li> </ul> <p>○「思春期保健」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「ピアサポート」 中学生対象（6/25）実施。 ※講師：八雲高校養護教諭</li> <li>◇ 「命の輝き」 町内5年生対象（7/3）参観日実施。 ※講師：八雲総合病院助産師・看護師、町教委、町内保健師</li> <li>◇ 「性の健康教室」 中学生対象（10/15、16、18）実施。 ※講師：町教委、町内保健師</li> <li>◇ 「地域の保健授業」 今金小学校6年生対象（12/4）実施。 ※講師：町教委、町内保健師</li> <li>◇ 「たばこの害と健康」 町内6年生対象（2/21）実施。 ※講師：町教委、町内保健師</li> <li>◇ 「認知症サポーター講座」 今小3年生対象（2/21） ※講師：町内メイト、包括グループ</li> </ul> <p>○「歯・口の健康」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 「フッ化物洗口事業」の継続。 ◇ 「歯磨き教室」全小学生対象（11月～1月）実施。 ※講師：養教、保健福祉課、町教委。</li> </ul> <p>○「今金町食物アレルギー対応連絡協議会」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 医療、消防、行政、学校、園、保健師、栄養士の横断的連携。「エビ・シイタケ」の允売（緊急時の連携）。「生活官理指導表」の活用</li> </ul> <p>○「感染症対策」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 感染症時期に備え、正しい手洗いと正しいマスクの着用を指導。迅速な感染症情報の提供。教職員対象の吐物処理講習会を実施。</li> </ul> <p>○「小中学生絵画書道展」 ◇各小中学校の児童生徒の作品は今金町総合文化祭において展示及び表彰式を実施。 ※表彰式 平成30年11月3日</p>	
節		金額（千円）		豊かな心と健やかな体の育成事業
【教育委員会費】				
8. 報 償 費		66		
【事務局費】				
11. 需 用 費		195		
【教育振興費】				
13. 委 託 料		2,147		
計		2,408		
補助金等の有無		有 ・ 無		
名称	へき地学校保健管理費補助金			
金額	39千円			
〔 事務・事業の写真等 〕		※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望	
	妥当性	A	「学校教育法」及び「学校保健安全法」の規定に基づいて実施。	
	成 果	A	「心の健康」「思春期保健」事業は、発達の段階に応じた進め方ととして、相手を大切に、自分を大切にすることを考え実践力を育む機会となっている。 また、児童生徒が抱く「生きづらさ」に寄り添い、課題に即したケアや健康相談に繋げてる。	
	効率性	A	養護教諭・保健師・指導主事・栄養士・消防・病院など他職種間に加え、保護者とも対話をし続け、関り続けることで、さらに連携の強化に繋がる。	
	総合評価	B	心の健康づくりを目指した活動の展開と環境整備等を進めている。 インフルエンザ罹患率/小中学校：H29年度は（28.2%）、H30年度は（17.1%）に減少。しかし道南で拡散した2月は、制御できず、小学校の一部に学年閉鎖の措置が生じた。	

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	インフルエンザ対応については、保護者からの影響もあるので対応が難しいが、引き続き、感染症対策に取り組んで頂きたい。また、性教育については、保護者も知識を得る機会が必要と感じられることから、保護者へのアプローチを検討して頂きたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		学-⑧
款	3 民生費	①事業の目的 昼間保護者が家庭にいない小学校低・中学年学童等を対象に健全育成を図ることを目的とする。 ②事業対象と手段 【事業内容】 ○ 親子の交流を図る。(父母の会主催：夏のレクリエーション・お別れ会等) ○ 子どもの成長・発達を祝う(誕生会) ○ 季節の行事を楽しむ。(節分・七夕・クリスマス会・まゆ玉飾り・ひな祭り等) ○ 土日開設日を利用した町行事への積極的な参加。(総合文化祭等) ○ 地域との交流を図る こぶしの会との調理交流(夏・冬休み 各2回)、更生保護女性会とのおやつ作り(夏・冬休み各1回) ジャがいもの花との紙芝居交流(年1回以上)、老人クラブ連合ふれあい交流会(冬休み1回)、陶芸同好会制作指導等 【対象者】 ○ 小学校1年生から4年生までの学童で、家庭で放課後一定時間安全に保護されていない下記に該当するもの。 1) 父子・母子家庭の学童 2) 保護者が長期病気の学童 3) 両親が共働きの学童 【令和元年度の入所状況及び開所状況等】 ○ 令和元年4月当初入所者数 97名 (1年生 28名、2年生 27名、3年生 23名、4年生 18名、5年生 1名) ○ 令和元年11月時点入所者数 90名 (1年生 31名、2年生 22名、3年生 21名、4年生 15名、5年生 1名) ○ 開所時間 平日：放課後から午後6時まで 長期休業中及び一日保育日：午前8時00分～午後6時00分まで ○ 開設日数 年間250日(内、土日開設13日) ※令和元年度も前年に引き続き当初入所希望児童数が定員70名を超えた為、老人福祉センター事務室の通称「第2学童」の定員を20名から30名へ運動場所として新総合体育館やオランダ公園も積極的に活用し、保育を実施している。 ※種川小学校児童は最多時8名(特認校制度利用者7名含む)の利用があり、特別支援教育対象1年児の受け入れの為、日々マンツーマンでの職員を加この為、基本職員配置数を、第1学童8名、第2学童3名として運営している。 ※平成31年3月末現在、所長以下合計4名の職員が放課後児童支援員認定資格を取得済みである。		
項目	2 児童福祉費			
	3 学童保育所費			
節	金額(千円)			
3.	職員手当等	0		
7.	賃金	9,446		
9.	旅費	84		
11.	需用費	5,023		
12.	役務費	351		
13.	委託料	483		
14.	使用料及び賃借料	143		
18.	備品購入費			
19.	負担金補助及び交付金	23		
20.	扶助費	10		
計		15,563		
補助金等の有無		有・無		
名称	子ども・子育て支援交付金	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	国・道：各、1,684千円	評価の内容及び今後の展望		
〔事務・事業の写真等〕		評価項目	評価	
 9月11日 BBと遊ぼう!(武道場)		妥当性	A	児童の放課後対策の拠点として学童保育所を運営することは必要かつ重要である。
		成果	B	令和元年度入所者数は当初定員超の97名、8月には定員一杯の100名となり、学童保育所のニーズは引き続き極めて高い状況にある。保護者の願いである児童の安全・安心の確保は一定の達成をみており、健全育成を図るための様々な指導・支援も日々実践されている。一方、児童の落ち着いた放課後の確保には「支援単位定員は概ね40名以下」とされており、第2学童設置による児童の分散で一定の成果はあるものの、未だ改善すべき余地がある。
		効率性	A	100名近い児童(特別な支援を要する児童4名を含む)に対し、児童の安全確保に必要な最低限の支援員数を配置(子育て応援隊の活用)、これに特別支援教育支援員の活用を加えて運営している。各学校や町内各事業等に合わせた開所及び職員配置対応を実施しており、効率性は高い。
		総合評価	B	学童保育所は児童の放課後対策拠点であり、入所ニーズも更に高まっていることから、今後も継続実施していく必要がある。児童のより充実した放課後の実現には、「児童の自主性を尊重した見守りの実践」や「周辺施設の有効活用による適正な空間確保」が課題である。長期的視点としては、少なくとも今後3年間は専用施設の定員70名超の利用が見込まれる中、将来的に小学6年生までの受け入れも併慮した中で、利用施設の適切な環境整備も必要となる。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	施設規模が決まった中において、運営に対し最大限努力していることが分かる。施設面や職員配置について、検討が必要に感じる。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	学校教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算の状況		〔事務・事業の概要〕		学-⑨ 事業 業務 名 名  町立 学校 教職 員の 働き 方改 革推 進事 業
款 項 目	10 2・3 1・	教育費 小学校費・中学校費 学校管理費	①事業の目的 北海道教育委員会では、道内全ての学校において働き方改革を進めるために「学校における働き方改革北海道アクション・プラン」を平成30年3月に策定し、1週間当たりの勤務時間が60時間を超える教員をゼロにすることを今後3年間の目標として、保護者や地域の方々の理解を得ながら各種取組を進めている。 本町においては、文部科学省や北海道教育委員会が策定した「働き方改革の計画」を参考に、「学校における働き方改革アクション・プラン」を策定しており、策定した計画を基に取り組みを実施し、教職員の時間外勤務等の勤務時間の縮減を目指す。	
節		金額(千円)	②事業対象と手段 ○「学校における働き方改革アクション・プラン」の策定 これまでの働き方を見直し、教員が業務の質を高めるとともに、日々の生活や教職人生を豊かにすることで、自らの専門性や人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行い教育の質を高めるとい、働き方改革のめざす理念を共有しながら、取り組みを実行する。 「学校における働き方改革」は、学校はもとより、北海道、町、更には家庭、地域等を含めた全ての関係者がそれぞれの立場で、学校種による勤務態様の違いや、毎日子どもたちと向き合う教員という仕事の特性も考慮しつつ、その解決に向けて取り組んでいくことが重要である。 アクションプランの目標:1週間当たりの勤務時間が45時間を超える教員を全学校でゼロにすることを当面の目標とする。 ・夏季休業3日間、冬季休業6日間の学校閉庁日を設定。教職員の夏季休暇、年次休暇奨励日としている。 ○各学校教職員の勤務時間把握の取組み 平成30年9月より試行的に各学校教職員の勤務実態を把握するためタイムレコーダーを導入し、健康管理へ活用する。  ○各学校教職員のストレスチェックの実施 各学校教職員が自らのストレス状態や原因を把握し、それをストレスへの対処のきっかけとして早期から心身の健康改善へ繋げる。	
【学校管理費】 13. 委託料		23		
計		23		
補助金等の有無		有・無		
名称 金額	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
〔事務・事業の写真等〕		評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
		妥当性	B	現在、学校を取り巻く環境は複雑化・多様化し、学校現場が直面する課題も多種多様であり、教員は様々な教育課題への対応を求められている。学校教職員が健康でやりがいをもって働くことができる環境を整え、子どもたちと向き合う時間を確保することは大変重要であり、学校教職員の負担を軽減する取組の実行が求められていることから、本事業は、妥当であると判断する。
		成果	B	学校全教職員の働き方が見直しされ、勤務時間の縮減に繋がるなど、成果が見えてくるまでには期間が必要である。
		効率性	B	本事業を通し、学校全教職員の意識改善に繋がる。
		総合評価	B	これまでの働き方を見直し、教員が業務の質を高めるとともに、日々の生活や教職人生を豊かにすることで、自らの専門性や人間性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行い教育の質を高めるとい、働き方改革のめざす理念を共有しながら、取組を継続していかなければならない。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	学校教職員の勤務時間の管理など働き方が見直しされ、勤務時間の縮減につながるなど一定の成果が表れており、今後も働き方の改善を継続していただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	給食センター庶務・業務グループ	事業番号
-------	-----------------	------

令和元年度決算の状況		〔事務・事業の概要〕		学一⑩
款 項 目	10 教育費 6 保健体育費 3 学校給食費	①事業の目的 「今金町食育推進計画」を実行していくために、学校給食では『食を大切にできる子』を育む事を目標に「地場産品の活用」、「各教科における食の指導」、「普及啓発」といった3つのテーマを設定し、推進事業を実施してきた。平成25年に策定された「食育実践計画」は、今年度より「第2期今金町健康増進計画」の中で一体的に策定されたこともあり、今後の事業において一定の効果があり定着してきた事業は引き継ぎつつ、新たなニーズや要素を加えながら、保健福祉課や栄養士ネットワーク等とも連携を図り食育事業を実施していきたい。 ②事業対象と手段 ○実施事業 ・認定こども園3歳児以上の米飯供給（週5日・4月～） ・へき地保育所（種川）米飯供給（週5日・4月～） ・給食センター調理員による夏休みこども料理教室（8月7日・15人参加） ・地場産物を活用した学校給食の提供（通年） ・図書室お話し会×食育推進事業（絵本のおかしを作ってみよう） ・今金産黒毛和牛を使用した給食の提供（10月4日・牛井で提供） ・学校給食食育推進委員会の開催（6月19日） ・今金食材サブライチム会議の開催（年1回・10月30日開催） ・今金町ふるさとの恵みとほほ笑みに感謝する日（11月15日開催） ・自分で作ったおにぎり弁当を持参（12月8日） ・洋食のマナーを体験しよう！（12月8日開催） 3年生：バイキング給食・お弁当作り体験 ・今金中学校を卒業したらお弁当を作れるぞ！プロジェクト 1年生：おにぎり作り体験・食に関する指導（地産地消） 3年生：バイキング給食・お弁当作り体験		
節	金額（千円）			
8.	報償費	10		
11.	需用費	437		
計		447		
補助金等の有無		有・ <b>無</b>		
名称 金額	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
〔事務・事業の写真等〕		評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
 <p>給食センター調理員による</p>		妥当性	B	目標や年間計画について諮る団体があり、食材供給に関しても情報交換並びに食材提供に関する支援をしていただける団体が機能しているため、スムーズな事業展開ができています。ふるさとの恵みとほほ笑みに感謝する日の調理では、保護者からでもできる限りご協力をいただき、また日曜参観日に実施する中学校2年生の洋食のマナーを体験しよう！でも保護者よりご協力をいただいているところ。
		成果	B	学校、家庭、地域により構成されている食育推進委員会で様々な食育事業の方向性を協議する事により、児童生徒に適切な食育事業を実施できています。お弁当を作れるぞプロジェクトでは、日曜参観日に合わせて自分で作るお弁当の日を実施し自分で食と向き合うという足掛かりとなるよう取り進めている。
		効率性	B	お弁当を作れるぞプロジェクトでは、12月の日曜参観日に合わせて、1年生はおにぎり弁当を作って持参し、2年生は洋食のマナー体験、3年生はお弁当を自分で作って持参するという事業計画とし、今まで学年によってバラバラであった事業をまとめて実施するようになっており、事業実施に関わる作業人員につきまちは保護者のご協力を得る等工夫して実施している。
		総合評価	B	各種事業を実施する際に生産者のご協力をいただきながら、町の基幹産業である農業を通じて食を大切にできる子を育てていこう、学校・地域・家庭・行政を含めた団体・人が協力・連携をし、今金産の食材を使用した食事を提供するふるさとの恵みとほほ笑みに感謝する日を実施できている事は大きな成果である。事業も工夫を加えられる部分等考慮しながら取り進めていきたい。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価欄
B

評価委員意見 おにぎりづくり体験に限らず、いろいろなアイデアを取り入れて食育の推進を継続してほしい。
---

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	給食センター庶務・業務グループ	事業番号
-------	-----------------	------

令和元年度決算の状況		〔事務・事業の概要〕		学一⑪	
款	10 教育費	①事業の目的			
項	6 保健体育費	日常の給食調理作業における、衛生管理は北海道教育委員会より発行されている「学校給食衛生管理マニュアル」に準じ日常業務にあたって		事業 業務 名	
目	3 学校給食費	とることであるが、食中毒や異物混入などの衛生管理・食品管理点検の更なる意識強化と、研修会の参加により児童生徒に安全で安心でおいしい学校給食を供給するという自覚を促す。			
節		金額 (千円)		学校給食センター給食供給事業(衛生管理)	
11.	需用費	16,887			
計		16,887			
補助金等の有無		有・(無)			
名称		〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
金額		評価項目	評価		評価の内容及び今後の展望
〔事務・事業の写真等〕		妥当性	A		給食について、地場産物を活用しながら安心安全でおいしい給食の供給に努めている。施設の老朽化により保健所の指摘を受ける箇所もあるが、既存の施設で対応できる中で改善を行いながら運用している。
 <p>夏休み・冬休み期間中は調理上及び各機器を細部まで清掃</p>		成果	A		栄養教諭・栄養士・調理員・技師が協力して施設管理を行い、調理に関しても衛生管理を徹底しており、食中毒等の事故がない給食の供給を実施しているところ。
		効率性	A	各学校への配送時間に関しては特段問題なく配送をすることができている。また、各学校の給食供給状況に応じて調理員の作業時間を調整する等、調理後2時間以内の喫食ができるよう取り進めている。	
		総合評価	A	今後給食センター建設の計画があるが、衛生管理上先延ばしにできない課題等があった場合は予算措置を要望しながら、実施していく。山際の施設であるため、虫の侵入に関し細心の注意の中で、作業を行っており、異物混入にも注意し、安心安全な給食供給を行ってきている。	

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	衛生管理を最大限対応していただき、安心安全な給食供給に心がけていることは評価できる。多くの卒業生からも今金町の学校給食が美味しいとの声も聴

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	給食センター庶務・業務グループ	事業番号
-------	-----------------	------

令和元年度決算の状況		〔事務・事業の概要〕		学一⑫	
款	10 教育費	①事業の目的 これまで、学校給食センター専門員として配置してきた学校栄養職員が平成21年4月より栄養教諭となり、今金小学校に配属となっている。さらに、平成23年度から町職員の栄養士が配属となり、お互いが連携を図り、子ども達へ栄養や食事に関する適切な指導と他の教科、家庭、地域との連携、学校現場における食育を推進し、安全で安心なおいしい給食を提供する事はもとより、地場産品を活用した給食を相互的に推進する。 ②事業対象と手段 ○実施事業 ・栄養教諭による新1年生と担任教諭に対する給食配膳指導 ・食に関する指導（中学生対象） ・栄養教諭による給食指導（今金小学校各学年） ・交流給食（種川小学校・今金中学校にて実施） ・学校給食センター調理員による夏休みこども料理教室の開催 ・今金の米の食を考えよう（今金小5年生） ・バイキング給食 ・今金中学校を卒業したらお弁当を作れるぞ！プロジェクト			事業 業務 名 名
項	6 保健体育費			11. 需要費	
目	3 学校給食費				金額（千円）
計		0			
補助金等の有無		有 ・ (無)			
名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善				
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望		
〔事務・事業の写真等〕		妥当性	B 今小では各学年で栄養教諭が給食指導を実施し段階に応じた指導を行っている。夏休みこども料理教室では、保健福祉課の栄養士や調理員を交えメニュー等相談し合い、互いに協力しながら実施する事ができていた。		
 <p>今金中学校で実施したお弁当を作れるぞ！プロジェクトの様子</p>		成果	B 食を大切にできる子供を育てる事を目標として、地場産物と触れ合いながら学び、最終的には自分でお弁当が作れるようになるため、各学年において様々な食農・食育事業における指導を実施している。		
		効率性	B 事業実施に向けて学校と協議し、お弁当を作れるぞ！プロジェクト関連事業を12月8日の日曜参観日にまとめて実施予定。事業の実施に当たっては、栄養士、栄養教諭と調理員と作業の分担を図り行っている。		
		総合評価	B 本務である給食供給を作業分担をしながら適切に実施し、食に関する指導も行っている状況である。今年度は図書関連の事業や保健福祉課の栄養士等と連携しながら新たな食育指導を行うことが出来たため、今後も児童生徒に対しより良い食育事業を実施できるよう工夫していきたい。		

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	栄養教諭と栄養士が給食供給を作業分担しながら適切に行い、食育指導も工夫し実施しており、今後も子どもたちのアンケートを踏まえ継続して取り組んでいただきたい。

令和元年度 今金町教育委員会外部評価事務事業一覧表 年間点検評価 <社会教育グループ>

事業番号	事務・事業名	自己評価				外部評価委員評価	
		妥当性	成果	効率性	総合評価	評価欄	意見
1	家庭・地域教育力向上推進事業	B	B	B	B	B	今年度の課題を踏まえ、令和2年度から実施予定のエッセイコンテストなど新たな取り組みなど一層の推進をしていただきたい。
2	青少年教育の推進事業	A	A	B	A	A	ニーズに合った事業を展開していることは評価できるが参加者の固定化は課題である。今後は新型コロナウイルス対策を踏まえ、魅力ある事業の発信や実施が必要。
3	成人教育の推進事業	B	A	B	B	B	ゴスペル事業は新たな運営スタイルであり、事業終了後も自主団体として活動が始まり評価ができる。今後も関係機関との更なる連携を図れるよう指導助言をお願いしたい。
4	図書活動の推進事業	B	B	C	C	C	新型コロナウイルス感染症対策で図書室休館中、リクエスト図書貸し出しを実施したことは、評価できる。今後も町内の図書環境の一層の推進を図っていただきたい。また、図書ボランティアの育成も図ってほしい。
5	国際交流の推進事業	A	B	A	B	B	国際交流のつどい受け入れ事業の在り方については、引き続き検討が必要であり、特に各学校の協力や必要性を再度確認する。またホストファミリーの協力なども積極的に対応していただくことも必要。
6	社会教育団体育成支援事業	B	B	C	C	C	各社会教育団体は人口減少など担い手不足が課題となっており、新たな団体育成が求められている。特に青年会議については、地域の有志を募って新たな枠組みで再編できるよう指導助言をお願いしたい。
7	スポーツ活動の推進事業	A	A	B	A	A	上半期は概ね各種団体が主体的にスポーツ活動を推進していましたが、下半期については新型コロナウィルス感染症対策のため活動場所の休館等に伴い、活動ができなくなった。今後新しい生活様式を取り入れたスポーツ団体を中心とした活動の推進を図っていただきたい。
8	スポーツ施設運営事業	A	A	B	B	B	新総合体育館でのスポーツ環境の充実やスポーツアドバイザーによる発信事業iフィットなどにより、体力づくりや健康づくりのニーズが高まり利用者も増加している。今後もスポーツ推進計画などに基づき推進していただきたい。
9	文化芸術活動の推進事業	A	A	B	A	A	様々な文化芸術における各種事業が効果的に運営がされており評価ができる。今後は、更なる鑑賞機会の充実を図るとともに、情報発信等を工夫していただきたい。
10	ピリカ旧石器文化館運営事業	A	B	B	B	B	施設の利用促進や情報発信事業を取り組んでいくとともに、新型コロナウイルス感染症対策を取り入れた施設運営を行っていただきたい。
11	文化財の保存・活用事業	B	C	B	B	B	今後策定予定の文化財保存計画の整備を行い、町指定文化財をはじめ具体的な保存活用を図っていただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社一①
款	10 教育費	①事業の目的 平成24年度より子ども達の規則正しい生活習慣、創造力、課題と向き合う力の定着を目的に「読書と作文のまち」を学校・家庭・地域・行政の共通ワードとして推進してきた。今年度は、改めて目的や概要を全体で共有化を図り、組織運営についても、行政主体の運営だけではなく、学校・家庭・地域・行政の各分野が自主的に活動を行っていただけるよう運営する。  ②事業対象と手段 1.【読書と作文のまちプロジェクトチーム(PT)運営事業】 ■学校・家庭・地域・行政の視点から委員構成 2. 会議・研修会等 ■7月22日第1回会議／11月6日第2回会議/12月19日第3回会議／3月12日第4回会議は新型コロナウイルスの影響で中止 3. 事業等(これまで実施してきた事業については継続実施) ■今金小学校PTA連合会「健康とスポーツに関する標語」 ■令和元年度68回檜山PTA連合会研究大会・母親研修会 アトラクション 8月25日 いまかね絵本「だいすき! だんしゃくん」読み聞かせ ■第3回健康まつり+第15回図書まつり 9月29日 【おはなしの時間】「ほしじいたけとほしばあたけ」「花さき山」読み聞かせ ■デジタルカメラで写真絵本づくり 2月9日(日) 36名参加 講師:写真家・絵本作家 小寺卓矢氏		
項	1 教育総務費			
目	2 事務局費			
節		金額(千円)		
学一①「確かな学力の育成充実事業」関連事務局費				
計		0		
補助金等の有無		有・無		
名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】	
	〔 事務・事業の写真等 〕			
				
	令和2年2月9日 デジタルカメラで写真絵本づくり	妥当性 B	ワーキングチームからプロジェクトチームへ発展的に組織し、より課題をとらえ解決する方向性を持つことができた。委員の委嘱について、今後、目的を達成するために、再検討の必要性がある。	
		成果 B	写真絵本づくりから参加者や委員が読書と作文(インプットとアウトプット)の手法について学び、表現力や創造力を養う機会となった。短期間だったが成果物の情報発信も行うことができた。	
		効率性 B	「学力向上」「人間力向上」を目的に、課題である知識を活用する学習の定着や生活習慣の改善を学校・家庭・地域行政がそれぞれでの取組について再確認することができた。	
		総合評価 B	「今金町の子どもたちは今金町民の手で育む」ことをキーワードに、インプットとアウトプット(読む・見る・聞く・話す・書く)を手段として、子どもの「学力向上」「人間力向上」に結び付ける活動を学校・家庭・地域・行政が一丸となって取り組んでいく必要がある。	

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	今年度の課題を踏まえ、令和2年度から実施予定のエッセイコンテストなど新たな取り組みなど一層の推進をしていただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社一②
款	10 教育費	①事業の目的 野外体験活動等を通じて自ら考え、主体的に行動する児童生徒の育成を図る。また、共同生活や体験学習と異年齢交流を通して、リーダー養成や協調性を培い生きる力を育む。土曜・休日の子どもたちの有意義な活動につなげることを目的に、「土曜学習」として社会教育が体験プログラムを提供する。 ②事業対象と手段 【土曜日の教育活動推進プランモデル事業「土曜学習」】 文科省補助事業 「今金わくわくカレッジ“イマカレ”」と題して、土曜日を中心に小中学生を対象に年間8本の事業を提供。 「土曜日学習」として既存事業と連携し、参加しやすい事業を提供した。特典達成者計12名 【ドリームバスツアー】 8月1日(木)～8月3日(土) 2泊3日 参加者:小学生41名・中学生8名・引率者10名 合計59名 内容:旭山動物園見学・当麻スポーツランド見学、旭川市自由研修企画・実施、北海道グリーランドほか見学 【少年の主張檜山地区大会派遣】 6月20日 乙部町 派遣者:今金中3年女子2名 ※次年度開催地は上ノ国町。 【ジュニアリーダーコース派遣】 7月29日～7月31日 ネイパル森 派遣者:なし		
項	5 保健体育費			青少年教育の推進事業
目	1 保健体育総務費			
節		金額(千円)		
9. 旅 費		218		
土曜日の教育活動推進プランモデル事業「土曜学習」 令和元年度学校・家庭・地域連携 協力推進事業費補助金 120千円 予算措置 自己財源89千円 補助金31千円				
計		218		
補助金等の有無		有・無		
名称	学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助金	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	31千円	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
〔事務・事業の写真等〕		妥当性	A	子どもの「人間力向上」につながるよう、各種体験活動の企画・運営を行っている。
 <p>令和2年1月11～12日 イマカレ『ウィンターキャンプ』 大型かるた集合写真</p>		成果	A	「土曜学習」を通して、自分が住む地域の良さに目を向けるきっかけとすることができた。宿泊体験事業から、参加者の主体性や協調性、自己肯定感等を育むことにつながっている。
		効率性	B	イマカレのように複数の事業をパッケージ化し参加しやすいよう事業の効率化を図っている。参加者の固定化が課題であるが、新規参加者も多少なりとも増加してきている。今後も各団体と連携して内容を検討していきたい。
		総合評価	A	事業のプログラムの中に様々な体験の視点を組み込み、多くの学びを得られるよう工夫している。成果にも記載したとおり多くの子ども達の成長につながっている事業として評価したい。
		〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		評価欄
		A	ニーズに合った事業を展開していることは評価できるが参加者の固定化は課題である。今後は新型コロナウイルス対策を踏まえ、魅力ある事業の発信や実施が必要。	

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社-③
款	10 教育費	①事業の目的 【北翔大学連携事業】北翔大学との連携により幅広い世代に学習機会の提供を目的とする。 【今金ふるさと塾】成人のための学習支援プログラムとして開設。年間を通じた学習機会を提供する。 【成人祭運営事業】新しく成人となる男・女が自覚と責任をもった社会人となり、各方面で活躍することを全町民こぞって激励祝福する。 【動く公民館事業】『見て学んで体験して』をテーマに町内外の体感学習や芸術鑑賞を鑑賞し町民の学習意欲の向上を図る。 ②事業対象と手段 【北翔大学連携事業】ファミリープロジェクト2019今金コレクション10/13 観覧350名 ※ふるさと創生支援事業活用 【今金ふるさと塾】①今金オリエンテーション5月19日(25名)、②リトルマーメイド鑑賞ツアー6月23日(33名)、③成人祭記念講演会8月13日(105名) ④町民文化講演会「金田一秀穂氏講演会」8月25日(約400名)、⑤ゴスペルワークショップ 9月26日・10月3日・10月12日(25名) ⑥健康スポーツ研修会3月2日 ※新型コロナウイルスの影響で中止 【成人祭運営事業】8月13日 出席者44名(対象54名) 一般参加者29名 記念講演「20歳を迎えた皆さんへ贈る言葉」講師：ヘアメイクアーティスト 百成位年氏(今金町出身) 【動く公民館事業】①今金オリエンテーション 5月19日(25名) ②劇団四季リトルマーメイド鑑賞ツアー 6月23日(33名) ③長万部町「男の純情」鑑賞バスツアー 2月23日(13名)		
項	4 社会教育費			
目	1 社会教育総務費			
節	金額(千円)			
8. 報償費	188			
11. 需用費	101			
12. 役務費	2			
今金ふるさと塾は人づくり推進会議助成金にて対応(100千円) 北翔大学連携事業はふるさと創生支援事業補助金(855千円)				
計	291			
補助金等の有無	有・無			
名称	ふるさと創生支援事業	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	855千円	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
〔事務・事業の写真等〕		妥当性	B	今年度も町教委の定例事業や各関係団体との連携により「今金ふるさと塾」としてパッケージ化し、町民に向けて参加機会を提供できた。色々な部署との連携により効果的な運営に繋がっている。
 <p>令和元年10月13日 ファミリープロジェクト2019今金コレクション</p>		成果	A	ふるさと塾は町民に定着してきており、町民の芸術鑑賞や学習機会の提供に繋がっている。今年度は成人祭、檜山管内PTA研究大会と連携し町民文化講演会を開催できた。ゴスペルワークショップは初めての開催であったが25名の参加があり、参加者自身の企画による今後の展開が期待される。大学との連携事業は3回目となり人材育成の面で成果を上げている。
		効率性	B	今年度は檜山管内事業、総合体育館落成記念事業など関係機関との連携した講演会等が開催され、町教委の定例事業とも連携し、広く町民に向けて参加機会を提供することができ、予算を効率的に活用できている。
		総合評価	B	各関係機関との連携による事業が効率よく運営されている。反面、ふるさと塾は特徴的な企画を発信できるかが課題であるが、事業を増やすのではなく各部署との連携を密にし、マンネリ化から脱却したい。また、体験講座を町民向けに行うことにより新しい活動の輪が広がった。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	ゴスペル事業は新たな運営スタイルであり、事業終了後も自主団体として活動が始まり評価ができる。今後も関係機関との更なる連携を図れるよう指導助言をお願いしたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行予算		〔事務・事業の概要〕		社一④		
款	10 教育費	①事業の目的 今金町図書振興計画に基づき「生きている図書室活動」の推進に努め、町民の生涯学習意欲を支えるため「いつでも、どこでも、だれでもが本に親しむ」ことができる機会と環境を整備する。また、「今金町子ども読書活動推進計画」の実践に努める。移動図書館車ブッコンは、地域での情報提供(本・資料など)やコミュニティの場づくりを考慮した活動の展開を図る。 ②事業対象と手段 ※( )内は昨年度実績 ※新型コロナウイルス感染症対策のため3月は休室 【図書全体利用】12,653冊(12,054冊)/ 5,527人(3,947人)[1か月平均 1,150冊/502人] ※内ブッコン 1,928冊(2,938冊)/ 1,054人(723人) ※内夜間開室【週2日水・木曜】1,001冊(1,166冊)/ 523人(345人)[1か月平均 91冊/47人] ※団体貸出 69団体 1,614冊 ※学習利用者 253人 【本のふれあい便】729冊(755冊)/118人(127人)[1か月平均 73冊/11人] 【図書室新規登録者】75人(45人) 【図書室イベント】 1.図書室おはなし会「おはなしころりん」(毎月第3土曜日、計10回開催)参加者 230人(171人)[1回平均 23人] 2.大人のための映画上映会(毎月第2木曜日、計11回開催)参加者75人[1回平均 7人]※図書貸出 7件 3.イマカレ事業「岸田典大さんの絵本パフォーマンス」(5月11日)参加者61人 4.学習室開放事業 夏(5日間)57人 冬(6日間)54人 【ブッコン運行】 1.地域巡回(毎月第1水曜日計7回運行) 2.「春らんまん花いっぱい2019」派遣(5月19日)10冊/35人 3.長期休業前学校派遣 今小(7月18日)518冊/190人(12月16日・12月20日)524冊/200人 今中(7月23日)15冊/3人(12月20日)0冊/3人 【学校図書館支援】 1.団体貸出(今小786冊、種小568冊、今中8冊) 2.養護見学受入(4月25日)36人 3.今中職場体験受入(9月)2人			事業名	
項	4 社会教育費			金額(千円)	計 1,303 補助金等の有無 有・無	図書活動の推進事業
目	1 社会教育総務費					
名称				※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額		評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望(年間評価)		
〔事務・事業の写真等〕		妥当性	B	前年度のリニューアル以降、利用者は増加傾向にある。下半期は感染症の影響でおはなし会の中止などが相次いだ。3月は新型コロナウイルスの影響で図書室を閉室としたが、代わりに実施したリクエスト貸出サービスには多くの利用があり、ニーズの高さを確認できた。		
 <p>令和2年1月8日 冬休み学習室開放事業</p>		成果	B	「大人のための映画上映会」の場で関連する図書を紹介するなど、図書の利用につなげられるよう取り組んだ。また、これまで図書室に足を運んだことのない人の参加もあり、少しではあるが図書室利用者の発掘につながっている。		
		効率性	C	業務内容が多岐にわたるため、図書室の人員体制としては厳しい状況にある。専門性が必要な部分を除き、ボランティアの協力を得られるような体制を構築する必要がある。講習会等を通じてボランティア組織の育成を図りたい。		
		総合評価	C	蔵書構成を見直し、蔵書管理の適正化を図る必要がある。読みたい本、知りたい情報を的確に提供できる機能を高めていきたい。町内企業や団体の発行物等を収集し、郷土資料の充実を図る。各課や関係機関などと事業の連携を図り図書室の利用促進を図る。		

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
C	新型コロナウイルス感染症対策で図書室休館中、リクエスト図書貸し出しを実施したことは、評価できる。今後も町内の図書環境の一層の推進を図っていただきたい。また、図書ボランティアの育成も図ってほしい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕	
款	10	教育費	①事業の目的 <b>【NZ中学生派遣事業】</b> 海外派遣を通じ、諸外国の人々とふれあうことにより異なる文化や習慣を体験し、国際感覚や国際理解を体得するとともに日本やふるさと今金を見つめ直し、広い視野と見識を持つ人材の育成と青少年の健全育成を目指し、併せて本町独自の国際交流が進展することを願い開催する。 <b>【国際交流夏のつどい】</b> 北海道国際交流センター（函館市）が主催する「国際交流のつどい」を本町で受け入れ、ホームステイを中心とした交流を通じ、国際理解や他国の文化や習慣を学ぶ機会とする。  ②事業対象と手段 <b>【NZ中学生派遣事業】</b> 派遣者 15名(中学生13名 引率者2名)≪選考面接会6月3日(木)実施≫ 事前研修 6月5日のパスポート申請事前研修をはじめ全8回実施(うち保護者同伴研修会1回、壮行会含む) 派遣期間 8月6日～16日まで11日間 事後研修 9月～11月の間 全8回実施 11月15日(金) 報告会実施 <b>【国際交流夏のつどい】</b> 参加者:3名、今金町ホストファミリー3家庭(内新規家庭1) 実施期間 8月24日～9月1日(9日間)
項	4	社会教育費	
目	1	社会教育総務費	
節		金額(千円)	
19. 負担金補助及び交付金		5,287	社一⑤  事業 務 名 名  国 際 交 流 の 推 進 事 業
計		5,287	
補助金等の有無		有・ <b>無</b>	
名称			
金額			〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善
〔事務・事業の写真等〕		評価項目	評価
 <p>ニュージーランド中学生派遣事業 学校交流のようす</p>		妥当性	A
		成果	B
		効率性	A
		総合評価	B
		評価の内容及び今後の展望【年間評価】	

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
中間評価欄	評価委員意見
B	国際交流のつどい受け入れ事業の在り方については、引き続き検討が必要であり、特に各学校の協力や必要性を再度確認する。またホストファミリーの協力なども積極的に対応していただくことも必要。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社一⑥
款	10 教育費	①事業の目的 団体運営に関する要望や相談に対し、的確に対応できる支援体制を強化するし、団体間の連携や情報共有化を図る。 ②事業対象と手段 【人づくり推進会議運営事業】11件申請（計772千円交付）※うち1件新型コロナウイルスの影響で中止 【今金町青年会議運営事業】（会員数：農青51名、商工青18名、一般4名、合計73名） 5月30日花壇整備事業、8月4日青年会議映画鑑賞会「そらのレストラン」上映 約80名参加 【今金町女性団体連絡協議会運営事業】（加盟団体2、会員数28名）7月7日檜山女性研修会今金町大会（97名参加） 【今金町子ども会連合会運営事業】（会員数224名）7月25～27日 ラジオ体操町内清掃のつどい（計125名参加）27日雨天中止 【今金町文化協会運営事業】（加盟団体18）11月2～4日 第50回今金町総合文化祭運営指導／11月10日 芸能まつり運営指導 【社会教育団体育成事業】①種川小学校PTA研究大会全校親子レク フロアーカーリング指導 2月1日 70名参加 ②健康体操講座 2月28日開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症のため中止 【いまかねミュージックサマースクール運営事業】事業番号⑨ 【国際国内交流事業】事業番号⑤		
項	4 社会教育費			
目	1 社会教育総務費			
節		金額（千円）		社会教育団体育成支援事業
19.	負担金補助及び交付金	2,682		
計		2,682		
補助金等の有無				

名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
〔 事務・事業の写真等 〕	妥当性	B	今金町の社会教育団体の様々な活動を支援することにより本町の人づくりに繋がっている。
 <p>子ども会連合会主催 ラジオ体操と町内清掃のつどい</p>	成果	B	社会教育団体を支援することにより、継続的に活動が続けられている。しかし高齢化や会員の減少により活動が停滞する場面がある。人づくり推進会議運営事業は各種団体の自由な発想で積極的に利用され、人材育成につながっている。
	効率性	C	各種社会教育団体の連携も少なからず行われているが、今後は団体の活動を検証し、諸課題を解決する方法を検討しなければならない。新しい形態として、町内の女性や団体が同じ目標をもって連携することを視点に団体指導を行いたい。
	総合評価	C	高齢化や会員減少など団体運営が困難な状況にある。活動内容の改善はもとより、青年層や地域のリーダー育成と発掘、新規団体設立へのアプローチなど課題が多くある。下半期には、保健福祉課、社会福祉協議会などと連携した企画を予定したが、新型コロナウイルス感染症に伴い事業中止となった。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
C	各社会教育団体は人口減少など担い手不足が課題となっており、新たな団体育成が求められている。特に青年会議については、地域の有志を募って新たな枠組みで再編できるよう指導助言をお願いしたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社一⑦
款	10 教育費	<b>①事業の目的</b> 幼児から高齢者までの体力向上、維持増進を目的に今金町の体育団体が一丸となり推進し、町民皆スポーツの実現を目指す。 <b>【ふれあいスポーツ交流会】</b> 冬期間のスポーツ・レクリエーションを通じて地域との情報交換、親睦交流を行うことにより、利雪、克雪の意識高揚と地域の風土に根差したまちづくりを図るとともに、スポーツ・レクリエーションの振興と健康づくりに資する。		
項	5 保健体育費			
目	1 保健体育総務費・事務局費	<b>②事業対象と手段</b> <b>【スポーツコーディネーター事業】</b> 大森健作氏に委嘱し、年間4回来町いただき各種事業の運営支援や町民の研修機会を設ける。 ①総合体育館オープニングイベント ランニングデッキ走り初め 4月13日 ②檜山管内老人クラブ研修会講師 8月22日 180名参加 ③女性のためのエクササイズ教室 11月18日 20名参加 ④スポーツ講演会「子どものやる気と運動神経・身体能力の高め方」2月17日 61名参加 <b>【総合型地域スポーツクラブ運営事業・今金町スポーツ推進委員会運営事業】</b> ※2月下旬～3月の事業は新型コロナウイルスの影響で中止 ■第7回ピリカふれあいマラソン大会 8月4日開催 163名参加 ■すっきりサークル秋の特別編(養護学校) 11月27日 参加者約40名 ■モデル地区支援事業 八東地区6月15日 約100名 ■フロアカーリング推進事業 審判講習会10月19日参加者5名 種川小学校フロアカーリング親子レク 2月1日指導者派遣、参加者約70名 ■第5回町民フロアカーリング大会 2月9日 指導者12名 参加者約60名 ■秋のヘルシーウォーキング 9月29日34名参加(健康まつり・図書まつり) ※悪天候のためランニングデッキを使用 <b>【今金町スポーツ少年団本部運営事業】</b> ■春の体カテスト会スポーツ見学会 4月13日 参加156名(団員130名/指導者26名) ※総合体育館開館式典と合同開催 ■秋の体カテスト会・スポーツ研修会 9月28日 参加118名(団員98名/個人4名/指導者16名) ※ふるさと応援大使の鈴木寛氏を招聘 <b>【ふれあいスポーツ交流会】4町連携事業「第4回ピリカふれあい歩くスキー大会」</b> 2月16日開催予定であったが、雪不足で中止		
節		金額(千円)		
1.	委員報酬	198		
8.	報償費	639		
11.	需用費	684		
12.	役務費	183		
19.	負担金補助及び交付金	5,614		
計		7,318		
補助金等の有無		有・(無)		
名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】	
	〔 事務・事業の写真等 〕			
				
	スポーツ研修会「ふるさと応援大使鈴木先生のウォーミングアップ教室～速く走るためのコツ～」9月28日			
	妥当性	A	各スポーツ団体との連携も図れ、子どもから高齢者まで、また障がいを持つ方にも積極的にスポーツを取り組めるメニューのきっかけを提供できている。今後も子どもから大人までの年代へアプローチできることを考えていきたい。	
	成果	A	様々なスポーツ団体や学校とつながりを深め、より効果的な運営及び継続性が図られている。ピリカふれあいマラソン大会や歩くスキー大会等様々な事業で、町内外を問わず参加を図る。この度、ふれあい歩くスキー大会は、雪不足により中止となり実施できなかった。次年度に向けてまた、準備をしていきたい。	
	効率性	B	事業に対する企画及び運営は各スポーツ団体が主体的に運営し、効率的に行えている。また、異なる事業に関してもスポーツ団体同士の交流が深められ、連携もできている。今後、参加者の減少が懸念されるため、興味関心のない層に対するアプローチを検討したい。	
	総合評価	A	各スポーツ団体が主体的に運営する形が定着しており、事業自体は円滑に開催できている。しかし、参加者の固定化と減少傾向がみられることから、今後も関係団体との連携に努め、町全体でスポーツ推進につながる取り組みが求められる。	

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	上半期は概ね各種団体が主体的にスポーツ活動を推進していましたが、下半期については新型コロナウイルス感染症対策のため活動場所の休館等に伴い、活動ができなくなった。今後新しい生活様式を取り入れたスポーツ団体を中心とした活動の推進を図っていただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社一⑧	
款	10	教育費	<b>①事業の目的</b> スポーツを通じた人間力(礼儀、社会性、協力性等)の形成と自分の未来を切り拓く強い心を育むこと。そして、スポーツ交流により地域の一体感、活力の促進を図るとともに、健康維持と増進、運動習慣の継続化を目指す。総合体育館及び野外体育施設(健民グラウンド・ゲートボール場等)の活用促進・維持管理。  <b>②事業対象と手段</b> <b>【総合体育館発信事業】</b> スポーツアドバイザーによる「i・フィット」運動教室を開催し、健康づくりと体力づくりの機会を提供 試行的実施とし、12月から計6回開催 延べ130名参加 ※3月は新型コロナウイルスの影響で中止 <b>【開館記念事業】</b> ■ヴォレアス北海道バレーボール教室 7月20日 70名参加 ■スポーツ研修会(鈴木寛氏招聘) 9月28日 118名参加 ■健康まつり・図書まつり お笑い芸人ステージ 9月29日 約300名来場 ■全道ミニテニス交流大会 10月6日 64名参加 ■ファミリープロジェクト2019 10月13日 ■空手総本部指導員招へい事業 10月26・27日 約100名 ■ボールゲームフェスタ 1月12日 トップアスリート9名来町 キッズチャレンジ小学生56名 ボールで遊ぼう!親子38組参加 <b>【学校開放事業】</b> ■町立学校体育施設の学校開放 ■プール開放(高等養護・種川小)夏休み期間7月29日～8月9日(土日除く) 369名参加	事業 業務 名名	
項	5	保健体育費			
目	2	体育施設費・体育施設建設費			
節		金額(千円)			
11.	需用費	7,149			
12.	役務費	522			
13.	委託料	13,007			
14.	使用料及び賃借料	263			
16.	原材料費	79			
13.	委託料	4,493			
15.	工事請負費	139,422			
計		164,935			
補助金等の有無		有・無			
名称	学校施設環境改善交付金			〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	スポーツ施設運営事業
金額	25,933				
〔事務・事業の写真等〕		評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】	
 <p>今金町総合体育館“あいきゅーぶ”</p>		妥当性	A	今金町のスポーツ振興と健康増進の拠点施設として町民のニーズに応えられるよう、関係機関との連携のもと、検討を重ねる必要がある。	
		成果	A	新総合体育館の利用数がこれまでの旧体育館と比べ倍増している。今後も安定した利用につながる環境づくりが求められる。また、i・フィット教室を実施し、今までと異なる運動実践者の獲得もできているので、今後も継続的な教室として実施していきたい。	
		効率性	B	夏休みの利用に関して、プール事業における水泳協会と教育委員会の連携がこれからも求められる。体育館での事業内容や今後の取り組みについての計画が求められる。	
		総合評価	B	これからの体育館プログラムや事業についても見直しを図り、継続的な実施と健康増進にもつながるプログラムの提供も今後検討していきたい。	

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	新総合体育館でのスポーツ環境の充実やスポーツアドバイザーによる発信事業iフィットなどにより、体力づくりや健康づくりのニーズが高まり利用者も増加している。今後もスポーツ推進計画などに基づき推進していただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社一⑨
款	10 教育費	①事業の目的 【幼少年芸術劇場】日頃接することの少ない文化芸術の鑑賞機会を提供し、幼児期・少年期の情緒発達の一助とする。 【IMAKANE Music Summer School】参加生徒の音楽に対する関心を高め、演奏技術の向上を目指すとともに、互いに交流を深め、協力 合う態度を育てる。札幌交響楽団メンバーによる中・高生のためのバンドクリニックを行い、日程の最後に参加者によるコンサートを広く 町民に披露する。		
項	4 社会教育費			
目	1 社会教育総務費			
節		金額（千円）		文化 芸術 活動 の 推 進 事 業
8. 幼少年芸術劇場		600		
19. IMS S		500		
地域づくり総合交付金 125千円×4町		500千円		
計		1,100		
補助金等の有無		有・無		
名称	いきいきふるさと推進事業助成金	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善		
金額	450千円	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】
〔事務・事業の写真等〕		妥当性	A	ミュージックサマースクールはプロから指導が受けられる貴重な機会であり、また他校の生徒・講師との交流も深められた機会となった。ガラコンサートには他町からの参加が多く、成果発表と芸術鑑賞の機会となった。芸術劇場は発達段階に応じた内容とし、プロの表現技術に触れられる良い機会となった。
		成果	A	コンクールで金賞を受賞したと報告があり、演奏技術の向上としての機能が回を重ねていくにつれ上がってきている。また、4町の生徒同士の交流や指導者との交流の機会も増えてきており、子どもの成長につながる貴重な事業である。
		効率性	B	4町教育委員会の連携でガラコンサートは多くの方に足を運んでいただき実施することができ、次年度も各町教委および各学校との連携を継続する。芸術劇場は児童・生徒のみではなく、内容によっては保護者に周知し、親子で鑑賞できる機会を提供する。
		総合評価	A	各発達段階に応じた内容を学校関係者と協議し、貴重な文化芸術鑑賞の機会をより良いものとしていく。
令和元年6月15日 今金小学校 ミュージックサマースクール				

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価欄	評価委員意見
A	様々な文化芸術における各種事業が効果的に運営されており評価ができる。 今後は、更なる鑑賞機会の充実を図るとともに、情報発信等を工夫していただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社一⑩
款	10 教育費	①事業の目的 史跡ピリカ遺跡の保存と保護意識を高めるため、体験学習の場を設け、文化財に対する正しい理解と知識を広めながら、貴重な文化遺産として後世に伝える。館の機能を活用し、学校教育での利用や団体研修を受け入れ、文化財保護意識啓発、郷土史教育へと広げる。		
項	4 社会教育費	②事業対象と手段 1)普及啓発・情報発信事業 ・ジェルキャンドル体験講座(イマカレ第1弾)4月28日開催21名参加/ピリカ遺跡まつり8月4日開催約170名参加 ・オリエンテーリング用紙を常設し、計約100名が体験(展示物をじっくり見学されるようになった) ・「考古学カフェ2019」札幌駅地下歩行空間チカホで学芸員が石器づくりを実演 10月27日実施 10,425名来場 ・フェイスブック公式アカウントの運営(令和2年6月時点で195人がフォロー) ・コラム執筆「出土品の整理作業と実測用具」北海道博物館協会学芸職員部会HPで公開中 ※1日平均800回アクセス ・年間入館者数 2,933名(前年度4,115名/平年比20%増) ※昨年度比で体験学習利用者数が大幅に減少		ピリカ旧石器文化館運営事業
目	3・4 文化財保護費・文化財保護施設費	2)ボランティア体制の整備・拡充 ・外来種オオハシゴソウの駆除活動 6月1日(土)ピリカ旧石器文化館周辺 ※花いっぱい運動と合わせて実施 ・7月20日(土)研修(北海道埋蔵文化財センター連続講座「旧石器文化の顔料と装飾品」6名参加) ・来館記念品の開発・拡充(岩石標本シリーズ新規開発 いまかわ陶芸同好会陶芸作品 今金高等養護学校紙製品)		
節		金額(千円)		
7.	賃金	1,512		
8.	報償費	10		
11.	需用費	1,183		
12.	役務費	36		
13.	委託料	352		
18.	備品購入費	49		
19.	負担金補助及び交付金	2		
計		3,144		
補助金等の有無		有・無		
名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】	
	〔 事務・事業の写真等 〕			
				
	来館記念品で販売中の「岩石標本」	妥当性	A 国指定史跡ピリカ遺跡の歴史的価値を広く伝えるという施設の設置目的を達成するため、入館料無料化の本格施行(条例改正)を行った。文化財や遺跡に関心のない人にこそ利用してもらうことで、文化財保護行政の理念の普及と啓発を図ることができている。	
		成果	B リニューアル1年目に比べると利用者数が減少したが、平年比20%増で推移しており、展示改修と無料化の効果が続いている。学芸員による展示解説の要請には可能な限り対応しているが、他業務との兼ね合いで一部断らざるを得ない状況にある。	
		効率性	B ピリカ遺跡をテーマとするオリエンテーリング用紙を展示室に常設し、全問正答者には認定証を贈呈するようにしたところ、よりじっくりと展示物を見学されるようになり、ピリカ遺跡の特徴を的確に学習できるという効果が図られた。	
		総合評価	B リニューアルと入館料無料化の効果で平年比20%増と、好調を維持してはいるが、魅力維持のための継続的な取り組みが求められる。ボランティア団体と連携を強め、地域住民とともに企画・運営することによって理解者を増やしていきたい。	

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善

評価欄	評価委員意見
B	施設の利用促進や情報発信事業を取り組んでいくとともに、新型コロナウイルス感染症対策を取り入れた施設運営を行っていただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	社会教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算執行状況		〔事務・事業の概要〕		社一⑪
款	10 教育費	①事業の目的 貴重な文化財の収集・保存・展示と伝統工芸技術の継承に努める。身近な暮らしや風習を高齢者から聞き取り、記録化を進める。伝統芸能の保存と継承を図る。  ②事業対象と手段 1)美利河砂金採掘跡・マンガン鉱山関連資料の整備・活用 ・札幌国際大学連携事業「ピリカプロジェクト」でスタンプラリーのスタンプ地点に設定。 ・札幌国際大学インターンシップの学生とともに鉱山関連資料の基礎的調査と展示替え作業に着手。 2)文化財保管・活用庫換気扇設置工事 ・収蔵資料のより適切な保管環境とすべく、換気扇の設置と外壁の防錆剤塗装を実施(7月完了)。湿気の低減に効果大。 3)デジタルアーカイブ事業 ・(故)遠藤勘治氏より寄贈された写真資料約1,500点の有効活用。11月2～4日の町総合文化祭展示会場「産業まつり特集」で公開。 ・今村藤次郎の功績に関する記事「今金町開拓の祖・今村藤次郎」執筆・公開。今金町のフェイスブック等でも周知が図られた。 4)埋蔵文化財事前協議の対応 ・開発行為に伴う埋蔵文化財事前協議の対応。		
項	4 社会教育費			
目	3 文化財保護施設費			
節	金額(千円)			
11. 需用費 (修繕料)		2,172		文化財の保存・活用事業
計				
補助金等の有無		有 ・ 無		
名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善			
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】	
〔事務・事業の写真等〕				
		妥当性	B 地域の歴史や文化、自然を知る上で欠くことのできない文化財を町指定文化財に指定することで、貴重な遺産を将来世代へ継承することができる。地域に存する文化財の掘り起こしと基礎的な調査研究を続け、併せて町指定化を進める必要がある。	
外壁塗装・換気扇設置が完了した文化財保管・活用庫(令和元年7月)		成果	C 札幌国際大学との連携で、イベント時でのスタンプラリーの取り組みやマンガン鉱山関連資料の整理・展示が進捗しているものの、砂金採掘跡については指定化に取り組むことができなかった。ピリカカイギョウ化石の基礎的調査についても進捗が見られていない。	
		効率性	B 学芸員の連携組織である「道南ブロック博物館連絡協議会」や「北海道博物館協会学芸職員部会」が運営するインターネット上のブログに記事を執筆することで、多くの人に今金町の歴史や文化財を知ってもらうことにつながっている。	
		総合評価	B ピリカ旧石器文化館運営事業以外の業務についてはほとんど着手できない状況が長らく続いている。令和3年度から策定を進める予定の「文化財保存活用地域計画」を念頭に、補助事業化を前提として長期的な視点をもって計画的に進める必要がある。	

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	今後策定予定の文化財保存計画の整備を行い、町指定文化財をはじめ具体的な保存活用を図っていただきたい。

令和元年度 今金町教育委員会外部評価事務事業一覧表 年間点検評価  
 <幼児教育グループ、子ども発達支援センター>

事業 番号	事 務 ・ 事 業 名	自己評価				外部評価委員評価	
		妥当性	成 果	効率性	総合評価	評価欄	意 見
1	認定こども園いまかね運営支援事業	B	B	A	B	B	昨年度10月から幼児教育・保育無償化等により子育て支援の充実が図られ、保護者のニーズに沿った運営ができたことは評価できる。今後も子育て支援施設の中核として充実を図っていただきたい。
2	へき地保育所の運営事業	B	A	B	B	B	入所者数の減による課題はあるが、地域・保護者との協議をしながら運営をいただきたい。
3	いまかね子育て応援隊活用事業	A	A	A	B	A	応援隊は学童保育所、へき地保育所等の運営全般に欠かせないマンパワーであり応援隊の制度は高く評価できる。今後も人員確保等に努めていただきたい。
4	子ども発達支援センター運営事業	A	B	B	B	B	各関係機関と緊密な連携を図り、相談体制の充実や療育利用等のニーズに的確に対応することが今後の求められるので引き続きセンター機能の拡充を図っていただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	幼児教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算状況		
款	3	民生費
項	2	児童福祉費
目	5	就学前子育て支援施設費
節	金額(千円)	
1. 報酬	297	
9. 旅費	63	
11. 需用費	573	
19. 負担金補助及び交付金	15,838	
20. 扶助費	103,034	
【地方創生】		
20. 扶助費	22,562	
計	142,367	
補助金等の有無	有・無	

〔事務・事業の概要〕																																																								
<p><b>①事業の目的</b> 平成23年4月に今金町と社会福祉法人函館カトリック社会福祉協会の連携のもと開設された「認定こども園いまかね」に関し、就学前子育て支援施設の中核機関となることから、民間のノウハウを生かしながらも今金町に適した教育・保育の提供がなされるよう支援する。 ※認定こども園＝幼稚園と保育園、子育て支援センターの機能を持ち、それぞれの良い面を活かしながら多様化する教育・保育ニーズに対応した施設。</p> <p><b>②事業対象と手段</b> <b>運 営 者</b>：社会福祉法人函館カトリック社会福祉協会 <b>支援内容</b>：町職員の派遣・幼稚園運営費補助金（H26で廃止）・育ちの支援事業に関する補助金・子育て支援センター運営に関する補助金・給食センターからの主食提供・保育所運営費・利用者負担額軽減に関する支援等の実施。（H29より道の多子世帯保育料軽減事業を実施、保護者にとっては更なる負担軽減となっている。） <b>町との連携</b>：①町の教育関係機関として位置付け、町教育委員会関連会議等に出席し、子どもに関することの一貫した環境の充実を図る。 ②心身の発達に心配のある児童に対する「育ちの支援事業」の提供と支援。・就学前交流事業、子育て支援センター運営等の実施。 ③「今金町子ども・子育て支援事業計画」策定の為、認定こども園いまかねと事務打合せを行い本町の实情に合った計画を策定する。</p> <p><b>入園人数</b>：(3月31日現在) <b>定 員</b>:1号認定25人、2号認定60人、3号認定40人 計 125人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分/年齢</th> <th>0歳児</th> <th>1歳児</th> <th>2歳児</th> <th>3歳児</th> <th>4歳児</th> <th>5歳児</th> <th>計</th> <th>備 考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教育利用</td> <td>1号</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>12</td> <td>旧幼稚園児童数</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">保育利用</td> <td rowspan="2">2号・3号</td> <td>短時間</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>旧保育所8時間保育</td> </tr> <tr> <td>標準時間</td> <td>5</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>29</td> <td>19</td> <td>27</td> <td>旧保育所11時間保育</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>6</td> <td>17</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>23</td> <td>31</td> <td>131</td> <td>内、広域入所3人</td> </tr> </tbody> </table> <p>※へき地保育所との交流事業・・・就学後、児童たちがスムーズに交流を図ることができるように年長児の交流を実施。 ①交流保育 ②お泊り保育 ③幼少年芸術劇場合同鑑賞会 ④さゆりの会人形劇鑑賞 ⑤CAP事業 等</p>									区分/年齢		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	備 考	教育利用	1号	-	-	-	5	4	3	12	旧幼稚園児童数	保育利用	2号・3号	短時間	-	1	-	-	1	3	旧保育所8時間保育	標準時間	5	17	19	29	19	27	旧保育所11時間保育	計		6	17	20	34	23	31	131	内、広域入所3人
区分/年齢		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	備 考																																															
教育利用	1号	-	-	-	5	4	3	12	旧幼稚園児童数																																															
保育利用	2号・3号	短時間	-	1	-	-	1	3	旧保育所8時間保育																																															
		標準時間	5	17	19	29	19	27	旧保育所11時間保育																																															
計		6	17	20	34	23	31	131	内、広域入所3人																																															
〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善																																																								

幼-①  
事業名  
認定こども園いまかね運営支援事業

名称	認定こども園いまかね施設給付費外金額
金額	45,814千円
〔事務・事業の写真等〕	
	
認定こども園・へき地保育所交流保育	

評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望
妥当性	B	町教育関係機関と位置づけ、教育委員会関連会議等を通し、幼保小中の一貫した環境の充実を図っている。年数回へき地保育所との連携事業を実施し、交流できる遊びを取り入れ就学後を見据えた活動となるよう努めている。
成果	B	H23年度の運営開始から、入園児童数がH23:126人(幼23人)、H24:133人(幼19人)、H25:126人(幼27人) H26:133人(幼27人) H27:132(幼25人) H28:139人(幼24人) H29:139人(幼20人) H30:137(幼20人) H31:131(幼12人) と開所から入所児童数が9年連続120人を超えていることや、保護者の就労等による保育利用の児童が多いことから、今金町の子育て支援施設の中核を担っており、幼児教育の充実が図られている。
効率性	A	保護者の就労形態により認定区分は異なるが、同じ保育を受け共に育ちあえる環境を整え運営している。
総合評価	B	子ども・子育て支援新制度が施行され、保育時間の延長・教育利用の預け入れ日数の拡充や10月からの幼児教育・保育無償化等により子育て支援の充実が図られており、保護者ニーズに沿った運営ができている。

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	<p>評価委員意見</p> <p>昨年度10月から幼児教育・保育無償化等により子育て支援の充実が図られ、保護者のニーズに沿った運営ができたことは評価できる。今後も子育て支援施設の中核として充実を図っていただきたい。</p>
B	

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	幼児教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算状況		〔事務・事業の概要〕		
款	10	民生費	<p><b>①事業の目的</b> 保護者が就労・病気などの理由で、小学校就学前の子どもの保育が困難な場合、子どもを預かり、保育指針（子ども・子育て支援法第3条）に基づき年齢別の成長に即した活動を展開し、乳幼児の心身の発達や集団生活での社会性を身につける。</p> <p><b>②事業対象と手段</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・種川へき地保育所での集団生活、運動会、お遊戯会等の各種行事の実施。（鈴金へき地保育所は平成30年度から休所）</li> <li>・入所児童 1歳児～5歳児</li> <li>・保育時間 8:00～18:00（月～金）、8:00～12:30（土）・農繁期の延長保育を年2回（春・秋）実施。（8:00～18:00）（土）</li> <li>・開所期間 4月～11月の8ヶ月間</li> <li>※こども園の定員超過による待機児童解消対策の為平成28年度から通年開所を行ってきたが、令和元年度のこども園の入園児童数が定員を下回る予定となったことから保護者や自治会と協議を重ね、令和元年度よりへき地保育所の開所期間を従来の開所期間に戻した。</li> <li>・入所人数（11月30日時点） 8名（0歳児 1名、1歳児 1名、2歳児 1名、3歳児 3名、4歳児 0名、5歳児 2名）</li> <li>・特 徴 地域の運動会や敬老会に参加し、地域とのつながりが深い。 （種川小学校運動会（6月16日）、種川敬老会（8月20日）、氷川神社祭典参加（9月9日・10日）、種川地区収穫祭）</li> </ul> <p>◆入所要件の拡大：平成27年度より、入所要件地域に働いている保護者がいればそれぞれの保育所へ入所できるように変更。</p> <p>◆認定こども園の入園児童数の増加に伴う待機児童解消対策として、平成28年度からは通年開所と保育時間を変更し、こども園と同様のサービスを提供するため 認定こども園、給食センターの協力により給食提供を実施している。</p> <p>◆へき地保育所運営等に関する保護者との連携について</p> <p>①合同親子遠足（6月28日／平成26年度より町教委主催）、②夕涼み会（8月2日／母の会主催）、種川小学校学芸会（11月9日）</p>	
項	1	児童福祉費		
目	2	児童福祉総務費		
節		金額（千円）		
3.		職員手当等		1,496
7.		賃金		1,097
8.		報償費		25
9.		旅費		82
11.		需用費		402
12.		役務費		282
13.		委託料		5,241
14.		使用料及び賃借料		10
18.		備品購入費		50
19.		負担金補助及び交付金		283
20.		扶助費		0
計				8,968
補助金等の有無		有		無
名称	へき地保育所特例給付費負担金 外			
金額	2,756千円			

幼-②

事業  
業務  
名  
名

へき地保育所の運営事業

〔事務・事業の写真等〕		〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
 <p>ふるさとのおみやげを 感謝する日</p>		評価項目	評価
		妥当性	B
		成果	A
		効率性	B
		総合評価	B
		<p>評価の内容及び今後の展望【年間評価】</p> <p>認定こども園の児童数増に伴い、待機児童解消対策として通年開所してきたが、今年度から従来の期間に戻した。地域行事に参加するなど、地域との繋がりを大事にしながら協力し合い、児童が健やかに成長していけるよう保育所運営を行っている。</p> <p>農業を営んでいる保護者が多く、各地区において農業繁忙期に併せ開閉所時間の延長期間を設けるなど、利用者のニーズに沿った保育所運営を行っている。また、保育所運営（草刈り・除雪）に対し保護者・地域から協力をして頂いており、保護者・地域・教育委員会と一緒に子どもたちの成長を育むことができている。</p> <p>また、一人ひとりの良さを生かした異年齢保育を行う保育士の役割は大きい。</p> <p>認定こども園いまかねと同様のサービスを提供するため、こども園・給食センターの協力により平成28年度から給食を実施している。</p> <p>種川へき地保育所長を種川小学校長が担うことで、就学前から児童との繋がりを図ることができている。</p> <p>保護者と定期的に懇談会を実施し、保護者のニーズに沿った保育所の運営を心がけ、円滑に運営されている。</p>	

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
B	入所者数の減による課題はあるが、地域・保護者との協議をしながら運営をいただきたい。

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価シート〔令和元年度事務・事業分〕

グループ名	幼児教育グループ	事業番号
-------	----------	------

令和元年度予算状況		〔事務・事業の概要〕		幼-③						
款	3	民生費	<p><b>①事業の目的</b>                  地域における乳幼児、児童生徒の健やかな子育てと保育教育環境を充実させることを目的とする。                  ※なお、応援隊員は、基本的には町民から募集し登録制とし、今金町教育委員会が開催する子育て応援隊講座を修了した者又は今金町教育委員会がこれに準ずると認められた者の中から今金町教育委員会教育長が委嘱する。職務は教育委員会からの依頼により活動していただく。</p> <p><b>②事業対象と手段</b>                  支援内容：主にへき地保育所保育士のサポートや、学童保育所常勤指導員のサポートを行っている。                  また、常勤者の休暇や出張する時の代替え保育士(指導員)として勤務する場合もある。                  ※へき地保育所や学童保育所の施設単位の諸行事に対する支援等も実施。                  ※各保育所入所説明会時や会議開催時の託児協力</p> <p>いまかね子育て応援隊協力者数：                  現在15名の登録者から子育て応援隊としての協力を得ている。</p> <table border="1"> <tr> <td>主に学童保育所での協力</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>主に種川へき地保育所での協力</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>両保育所での協力</td> <td>3名</td> </tr> </table>		主に学童保育所での協力	10名	主に種川へき地保育所での協力	2名	両保育所での協力	3名
主に学童保育所での協力	10名									
主に種川へき地保育所での協力	2名									
両保育所での協力	3名									
項目	1・2	児童福祉費 児童福祉総務費・学童保育所費								
節		金額(千円)		いまかね子育て 応援隊活用事業						
7.	賃金(児童)	1,025								
7.	賃金(学童)	5,153								
計		6,178								
補助金等の有無		有・ <b>無</b>								
名称	〔自己点検と評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善									
金額	評価項目	評価	評価の内容及び今後の展望【年間評価】							
〔事務・事業の写真等〕										
 <p>子育て応援隊活動状況 (へき地保育所消防避難訓練)</p>		<p>妥当性 A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各保育所において、日々の必要人員確保に不可欠な存在である。</li> <li>常勤保育士・指導員の休暇取得時や研修・出張時の代替えや、各種事業等の託児室開所時の勤務対応も有り。</li> </ul> <p>成果 A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所の円滑な運営はもとより、多様な経験と個々の得意分野(物づくりのノウハウ等)を生かし、保育内容の充実にも大きく貢献している。</li> </ul> <p>効率性 A</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>時期や事業に連動し、必要に応じたシフト配置が可能となっており、効率性は高い。</li> <li>H31年度は質、量共に更なる充実がみられ、特に学童においては特別な支援が必要な児童へのマンツーマン対応や、欠員発生時の代替え確保にも効果大であった。</li> <li>運営全般に欠かせない貴重なマンパワーとして高評価に値する。</li> <li>一方で、常勤職員との立場の違いが、責任感の相違や両者の軋轢を生むことも間々あり、より一層連携の取れた施設運営には、制度の見直しを含めた検討も必要と思われる。</li> </ul> <p>総合評価 B</p>								

〔外部評価委員会の点検・評価〕 ※評価 A:的確 B:良好 C:要検討 D:要改善	
評価欄	評価委員意見
A	応援隊は学童保育所、へき地保育所等の運営全般に欠かせないマンパワーであり応援隊の制度は高く評価できる。今後も人員確保等に努めていただきたい。